

ロ、單位性とは何ぞや。

新 著 紹 介

理學博士 飯島魁編 動物學提要 全

發行所 大日本圖書會社

定 價 金 拾 貳 圓

1. 本書は飯島博士が前後十五年間を費して作られ、我國未曾有の最大動物書である。
2. 我國で斯んな立派な動物書の出たのは實に今回が始めてだ。恐らく今後此の如き試みは又とあるまい。
3. 英米は勿論獨逸にさへこれ位宜い動物書は甚だ少ないといふ話だ。
4. 四六倍版の九百五十頁で精巧極緻なる一千一百十四個の挿圖が紙面に獨得の光彩を放つて居る。
5. 書中各所に無数の參考書(洋書も和書も)が擧げてあるなど實に申分なく親切に出來て居る。

以上は、圖書會社から發表された本書新刊の公告文中より拔萃したもので、元來新版物の公告文なるものには往々實價以上に賞讃辭を並べ立て、見る者をして賣藥の效能書を読むような感じを起さすのが一般であるが、本書の此の公告文中には少しも斯かる氣配なく、誇大の文字もなければ、過賞の言詞もない。博士が本書の編纂に着手せる發端より承知せる予輩に取りては公告文のより以上に本書の眞價を認めたとある。

本書の編纂に十五年を費したとある。一年掛かつても

三年といひ、三年もかゝれば十年も費したと吹聴するのが世間の所謂公告であるが此の十五年には少しも掛値がないように思ふ。圖書會社に以前小池啓吾といふ男が居つた。此の男の頼に依り予輩が博士に本書の著述を勧めたのである。其の時博士は本屋で催促せず、何時迄掛つても宜いといふなら編纂に着手して見ても宜いと言はれた。小池も眞逆十五年もかゝらうと思はなかつた。せうからハイ宜しいと約束をした。所が二年経つても、三年たつても音信がないから、偶々博士を訪ると催促？催促するなら廢しどといはるゝので閉口ですと折々來ての小池氏の述懐であつた。是は七八年の間で其の後小池は病死してもう七八年になると思うから博士が着手してから慥に十五年位はかゝつたと思ふ。何も編纂年月の長短に依て著書の善惡は定まる譯でないが、本の内容を見て博士の勞を多とし又博士の根氣の強いのに感服するのである。

我國で斯んな立派な動物書の出たのは今回が始めてだとは如何にもそうである。恐らく今後此の如き試みは又とあるまいとは些と如何？是は圖書會社の自慢だと思ふ。動物學は新進の科學で日に月に進んで行くからもう十年も経つと古い説が廢れて新しい説が陸續と出て來るから自然改訂を要することになる。其の時に他の動物學者が著述に着手しないとは限らない唯圖書會社のやうな他に大きな本屋があつて其の出版を引受くるや否やの問題が残る丈である。

英米は勿論獨逸にさへこれ位宜い動物書は甚だ少ない

と。是も誣言でないと思ふ。獨逸書では次の二種

- 1. Claus—Grobe, Lehrbuch der Zoologie, p.970, f.993.
- 2. Hertwig, Lehrbuch der Zoologie, p.6353, f.588.

英書では Claus の譯書もあるが先づ次の二種

- 1. Parker and Howell—Text Book fo Zoology p.1407, f. 1835.
- 2. Sedwick—Student's Text—Book of Zoology, p.21193, f. 1375.

以上四種の動物書には夫々善い所もあり又缺點もある。要するに Hertwig を除いては内容の分量の點に於て孰も提要に優るといはれるだらうが提要に採用せられたる動物分類法は内外の動物書中最も新しい且動物各部類に關する説明の精粗に餘り甲乙のないのは提要の勝れたる特色であると思はれるし又動物の實例は悉く本邦産に取られ到り本邦の學生の爲に特に著述されたのであるから此の一點から考へても確に洋書に優る所はあると思ふ。

最後に和洋共に多數の參考書を擧げてあるのは實に申分のない親切のことであるとあるが如何にも然うである。洋書でもこんなに澤山の參考書を掲げてあるのではない況んや日本語の動物書には殆ど例のないことゝ信ずる。一體著者が一々參考書を擧げるのは非常に手數なことて面倒臭い業である。博士が其の勞をも厭はなかつたのはいはゆる親切と言はるゝ點で後進者が之れが爲にどれ程幸福であるか測り知れない且これが後進者を奨勵する動機となるから博士の勞は決して無駄でないと思ふ。

以上は予輩が本書を所々拾ひ讀をし圖書會社の公告文を見て之れを對照し其の文言に偽りのないことを感じた

點である。兎に角動物學を修めんとするものは勿論苟も博物學の教授を擔任するものは是非とも一讀すべき貴重

雜 報

役員交替 大正五年四月以降平田教授は理科部長として本部の爲め盡力せられ居りしが本年四月より矢部教授新に部長となられたり會計掛は從來江澤教諭二年間當られ居りしも本年四月より平島助教授之に替られたり。

黒田牧田兩氏の就任 理學士牧田らく子氏は去る四月より講師として數學の授業を分擔せられ居り同黒田ちか子氏は七月迄東北大學にて其研究を續けられ居りしが九月より本校教授として有機化學の授業を受持たるゝことゝなりたり。

會費受領報告(大正七年三月廿七日ヨリ 九月三十日マデ)

金六拾錢(大正七年分)

芳尾里能	尾田英	滋賀千代	林 薰
大石トヨ	鈴木信	田村あい	河上みわ
新井しづ	奈良そう	高間のぶ	小倉あい
大島てい	沼野ハナ	本間ナヲ	永井やゑ
本間ヤス	櫛山 靜	栗山つな	宮本ふゆ
北川よね	磯部フサエ	木津しげ	山寺せい
安達智	門田あき	増田敏子	中馬キチ